

日本切手 DATABASE の 15 年

はじめに

2009 年会報 33 号に「日本 DATABASE 完成」を著して 15 年、どうにか現在まで DATA の保守、訂正をしながら維持してきた。しかし、心身の衰えを感じる今日、ここまでの DATABASE の歩みをふりかえり、1 つの区切りとしようと思い駄文を著した。



DATABASE の現状

切手 DATA 数 5604 で始まったが現在は DATA 数 13000 を超え、2.5 倍である。当初、Excel でなく、DATABASE ソフト **Access** で作成をパソコン郵趣会員の方々からの助言を受けたが、Excel の機能の向上が大きく現在の DATA 数でも十分に動いている。多分、現状の倍程度までは大丈夫であろう。

15 年間の DATA の追加更新作業で感じていることは。

① KEYWORD の統一を保つことの難しさ

つい思い付き泥縄で入力積み重ねが大きな問題となってきている。自己責任である。

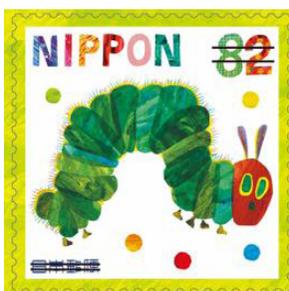
② 解像度良い切手画像を手に入れられなくなった。当初、新発行切手を購入し、400dpi でスキャンしていたが、年に 300 ~ 400 種を購入することになり断念。シート画像でなく、各切手画像を準備するのが大変になった。

③ 切手に関する情報が非常に貧弱となって情報取得に時間を要するようになった。発行される切手情報は日本郵便のホームページから

であるが内容は年々お粗末になってきている。切手に付加されていたデザイン内容の説明が最近は無いことが多い。

②の切手画像準備について触れておく。

黒地背景の切手画像を原則として準備してきた。スキャナーで準備するのは切手の上に黒紙をのせてスキャンすれば良いのだが、日本郵便、郵趣のホームページから画像を得るには画像処理ソフトの助けが必要である。日本郵便からの時はシート画像から切手をそれぞれ切り取れば良いが、郵趣 HP の画像は、多分、上記の作業で切り取られた画像だと思われるが 左下図のように画像処理ソフト



の水平、垂直配置機能の助けを借りて外側をご覧の黒地にすることで切手として生きるように感じられる。画像が 72dpi であるが故の難しさである。下の黒地にすることで切手として生きるように感じる。画像処理ソフトに自動選択ツール、水平・垂直配置の機能に助けられている。

利用して生じた問題とその改善

DATABASE を使用していて大きな欠点に気付いた。第 1 は 2000 年以降 1 件の切手が多種類発行のため詳しい発行状況を知るための資料としては全く対応できていないこと、第 2 は DATA 数が多くなると本プログラムだけで 1 つのテーマについて角度を変

えて検討するには時間を要する上に基本プログラムを壊すリスクが増えたことである。

★第1の問題が気になり出したの年毎に切手発行を整理すると種類だけのDATAを1990以前と後では比較しても全く意味をなさないことに浅はかにもやっと気付いた。そこで現在の種類中心のDATABASEを利用し発行日が同じでも内容の異なる切手を別件として新たに種類数、発行枚数、料額の合計を加えて2784件を記録した**日本切手発行件数DATABASE**とでもいうExcel FILEをマクロでスムーズに作成できた。その過程で驚いたのが1989年頃からふるさと切手発行が盛んになりその後20年前後を中心に同日発行の切手が600件近くあり、その半数がふるさと切手であることだ。この新DATABASEで早速発行件数を整理してみた。まず、現在までの発行件数と種類の推移が図1で1990年代以降の発行の急激な増加が発行件数から種類数へと変化していることがわかる。件数の観点から目立ったことを上げると、1件で発行された種類の最多は75種で20種以上発行されたのは46件、発行枚数では1件で1億枚以上発行したのは64件、1件の発行で収集家に強いる出費で1000円以上を求めたのが61件であった。それぞれベスト9の代表切手を示すと下から次PAGEのような3

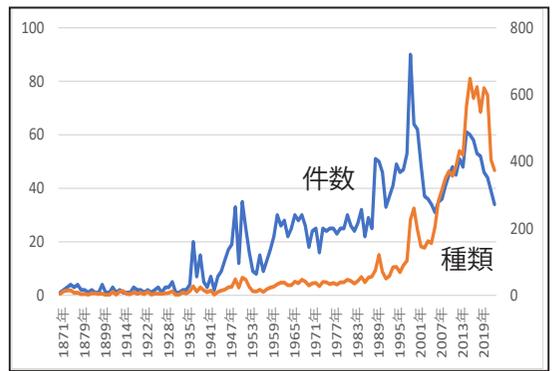


図1 郵便開始以来の切手発行件数・種類の推移

つの切手画像が示された。発行枚数については理解できるが、種類、切手料額についてはオリンピック切手、グリーティング切手等問題を感じさせる発行である。

★第2の問題は検索作業で得られた結果を検討するのにDATA数が50程度であれば整理検討するのを継続して日本切手DATABASE上で作業しても基本DATAに影響

同じ日に発行された切手の画像
戦前は富士鹿切手に何日か見られる



1949年6月1日発行の3件3種
産業切手 採炭夫 気象台 75 年電通省設置



1999年4月26日発行のふるさと切手5件18種 一部省略
サクランボ 松本城太鼓門 兼六園4種 ホテルイカ しまなみ街道開通10種



1件の発行から生まれた切手種類BEST 9



1 件の発行で印刷された切手枚数 BEST 9



1 件の発行から印刷された切手枚数 BEST 9

響、ミス入力など生じさせることも少なく、所要時間もかからない。しかし、500以上のDATA数の結果をそのままDATABASEで検討していくと時間を要し、新たなSHEETを作成して進める必要が生じ、混乱して基本的なSHEETを壊すリスクが生じた。

そのため得られたDATAで新たなDATABASEを作成する必要を感じた。そこで

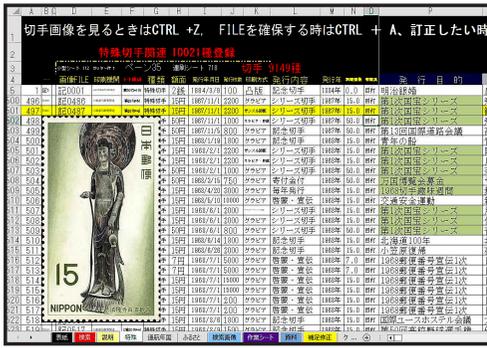
従来のDATABASEに準じたサブDATABASEのようなExcel FILEを作成し、クリックで新たなDATABASEができるボタンを検索SHEETにマクロで準備した。例えば、グリーティング切手を検討する場合下記のように2500を超えるDATAを得た。このまま種々の分析を行うには、重たいFILEを引きずっての作業では時間、リスクが増す。そこで「DATA分析用 FILE作成」ボタンをクリックするとグリーティング切手検討と画像FILEができ、並び替え、クロス集計、各種統計に加えて画像の編集が時間を要さず出来るようになった。お陰で本会報への寄稿記事を書くことができた。なお、このサブDATABASEではNOT検索機能を持たせ、より細かい検索作業ができるようにした。



画像 FILE の使用と切手画像の編集の問題

アルバム、展示等に使用したいと考え、検索で画像を確認し、FILE名を知りそのFILEを3つのFOLDERに分けてあっても12000を超えるFILEから探し出すことはFILE操作ソフトを利用しても非常に難しく時間を要した。そこで新たな機能をもつCtrl + キーをマクロで作成した。次PAGEの図のごとく切手DATAの行をクリックしてCTRL+Zで画像が表示され、この画像が希望の切手であれば。加えてCTRL+Aを押すことで、**指定場所**というFOLDERにCOPY保存され、他の作業からの利用を容易にできる。この機能はどのSHEETであっても切手DATAのある行であれば可能にした。

なお複数の画像FILEをFOLDERに一度に確保する機能は検索SHEETにボタンとして準備していたので、このDATABASEでは切手画像FILEを目で探す必要はなくなった。更に必要を感じたのが確保した切手画像一覧を画像と文字情報を合わせて一目に比較しな



黄色行をクリックし、そのDATAの切手画像をCTRL+Zで画像を表示させ観音菩薩・百済観音を確認して、FOLDER指定場所にCOPYする時はCTRL+Aを押す。黄色になるのはCTRL+Zの後表示画像のDATAであることを示すため彩色される

がらその時の課題に適した画像FILEを選択することである。この機能もDATABASEにCTRLコマンドで持たせて画像を容易に選択する環境は下のように整った。

最後に残ったのが準備した切手画像を目的の記事、原稿のSOFTへの貼り付けである。1枚ずつ貼り付けならそれぞれのSOFTの方



蒸気機関車で検索された切手36種の画像を表示させ、比較検討し特定した切手画像の上部に表示された切手の通称を表示セルをクリックし、CTRL+AでFOLDER指定場所に確保される。例えば、鉄道100年のセルをクリックし、CTRL+Aを実行、これで鉄道100年切手1枚の画像を確保

法で問題ないが20枚以上の画像をそろえて貼り付ける場合が生じる。この貼り付け用の画像をDATABASEから直接作る機能を持たせるためマクロでボタンを作成した。蒸気機関車の日本切手を32画像ですべて紹介する場合、基本DATABASEからSUB日本切手蒸気機関車DATABASEを作成、目的にふさわしい順番にここでは8種ずつ並び替え、PDF画像として準備し利用した。

この蒸気機関車切手表示をご覧ください切



左下の検索をした時に蒸気機関車DATABASEとでもいうべき小さなEXCELFILEを作成しEXCELの機能で切手種、発行日順に並び替えて1行8種を指定し画像を表示しPDFfileとして保存し利用

手のサイズがおかしいとお気づきだと思う。サイズの小さい普通切手は大きく、弁慶号のように大きい切手は小さく表示されている。縦横をそろえて見やすく美しく表示するために一定のサイズのスペースの中に可能な最大サイズで表示するようにマクロを組んだためである。縦横比は変更できないので、縦型切手は幅が狭く、横型切手は高さが低く表示されている。実際の切手サイズに表示するとサイズがそろったシリーズ切手などは良いのだが、縦、横型がある場合などは非常に見にくいので使用するのを控えた。この様に大量の切手画像を一覧で見ることができるようになり、新たな切手発行に対する考えを得ることができた。例えば76年間122種の国民体育大会切手を次頁図のように見るとデザイン対象がアスリートに開催地の名所、観光地、スポーツ用具等が加わり、スポーツとふるさと自慢の切手になったこと、加えてデザインの低下、印刷の質が低下していることが一目瞭然である。また、年に20種発行される季節のグリーティング切手を一覧にする。10年に200種も発行されているグリーティング切手の1つ季節・春のグリーティング切手を見ると次頁のように美しく色鮮やかなシールの画像になり日本切手のイメージに大きな影響をもたらしていることを考える。また遊び心を刺激され色彩の幅が広い切手として有名なマーチン切手を用いて右の市松模様の画像等を楽しみながら切手画像の新たな利用ができるのではと考えたりしている。



2000年以降記念切手からふるさと切手になり。国土緑化切手と共にふるさと切手として残り発行される。デザインに統一性を求められなくなってきた。

おわりに

新たに発行件数 DATABASE を作り、対象別 DATABASE を必要に応じ容易に作成できる環境と切手画像の扱いと利用をキータッチで可能にして、切手を整理検討してきた15年を振り返って、切手趣味にどれだけ意味があったか疑問である。カタログ収集であればこのような検索を要することは少なく、1枚の切手から得られる情報が重要である。この点この DATABASE は役立たない。思うのは会報78号で触れた日本切手図鑑(梅,DVD版)



12年間に発行された春のグリーティング切手140種の画像。切手趣味に自信が持てなくなる。



600種近く発行されその色彩の豊かさを楽しませてくれたマーチン切手、中から地味なもの9種で市松模様を作ってみた。もちろん1クリックで完成

がある。この DATABASE が梅に比較し情報量の圧倒的少なさを痛感する。また、整理検討、分析の面においてこの DATABASE は検討対象の資料を準備する上では有効であるが、それを分類、並び替え、クロス集計、グラフ作成、統計処理するのはすべて Excel の基本的機能によって行っており DATABASE の機能ではない。Excel で作成したこの意味が非常に大きい。この点を踏まえて今後どれだけできるか怪しいが情報量を増やし、少しでも役立つものになりたい。